

平成28年度秋季サワラ流網試験操業の結果

サワラは岡山県でも非常に馴染みが深い魚であり、昭和61年には535トンと多く獲れていました。しかし、その後、減少を続け、平成11年にはわずか5トンにまで減ってしまいました(図1)。「このままではサワラがおらんようになってしまう」と危機感を抱いた漁業関係者は協議を重ね、資源管理や種苗放流に取り組み始めました。その努力が実り、平成27年には97トンにまで回復してきました。今年も6月に約7万尾のサワラ稚魚が瀬戸内海に放流されました。

このように資源は回復傾向にあるサワラですが、水産研究所では毎年の資源動向を把握するため、秋季に流網試験操業を実施し、漁獲魚に占める放流魚の割合を調べています。

具体的には、その年の春に産まれた当歳魚(0歳魚)を捕獲し、頭部から耳石(写真2、平衡感

覚と聴覚に關与する器官)を取り出し、蛍光顕微鏡で観察します。放流魚の耳石(写真3)には、放流前の水槽飼育期間中に染色標識が施されているため、放流魚の判別が可能となるのです。

牛窓町漁業協同組合の協力を得て10月に3回の試験操業を実施し、合計241尾の当歳魚を捕獲しました。それらの耳石を調べたところ241尾中1尾が放流魚であり、混入率は0.4%となりました。混入率は、春に天然発生した当歳魚が少なければ高くなり、逆に多ければ低くなります。今年度の混入率は過去と比較して低いことから(図2)、春に産まれて生き残っている当歳魚が多いのではないかと考えられます。

今後も、サワラ資源が回復することを願いつつ、調査を継続していきます。(資源増殖室:小見山)



写真1 サワラ

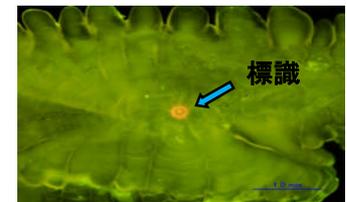
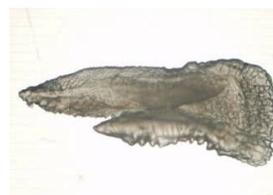


写真2 サワラの耳石 写真3 耳石の染色標識

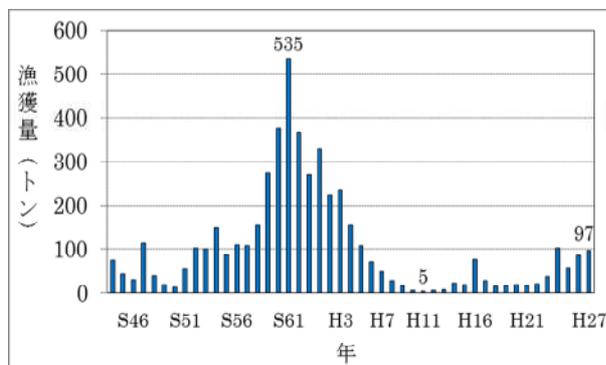


図1 岡山県におけるサワラ漁獲量

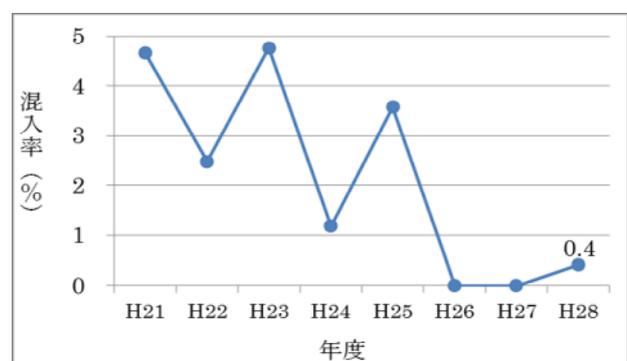


図2 秋季試験操業におけるサワラ放流魚の混入率